

2024（令和6）年度 事業報告書

1 営業日ならびに営業時間

営業日 月曜日～金曜日及び管理者が定めた日

営業時間 8時30分～17時00分

サービス提供時間 9時30分～15時30分

2 年間開所日数

269日

3 利用者状況（2025年3月31日現在）（単位：人）

サービスの種類	定員	登録利用者数	平均利用者数	新規利用者数	退所者数
生活介護	15	15	13.9	0	0
就労継続支援B型	15	14	12.7	1	0

平均年齢＝33歳 男性：20名 女性：9名 平均区分＝5.1

4 職員体制（単位：人）

サービスの種類	職種	勤務形態		
		専従 or 兼務	常勤	非常勤
生活介護	医師	専従	0	1
	生活支援員	専従	1	0
		兼務	3	13
	看護職員	兼務	0	2
	機能訓練指導員	兼務	0	2
就労継続支援B型	生活支援員	専従	0	0
		兼務	3	11
	職業指導員	専従	1	0
	目標工賃達成指導員	専従	0	1
		兼務	0	2
共通	管理者・サービス管理者	兼務	1	0
	送迎専門員	専従	0	0

5 利用者送迎

ア 姫路市内を4方面に分け運行し、1日あたり約17名程度が利用している。

イ 悪天候時や体調不良時等、利用者の状態に配慮し、緊急的な送迎にも臨機応変に対応している。

6 研修関係

専門職者としての資質の向上を図る為に、施設内研修や外部での研修に積極的に参加し、専門分野などの知識や最新情報を収集し、他職員への情報提供や事業所でのフィードバックを実施。現在、オンラインでの研修が主流となっており、遠方で開催される研修にも参加。

ア 事業所内研修

2024. 4. 19	「職員行動基準」虐待防止研修	上田施設長	19名
2024. 5. 17	「強みを生かす職場づくり」 ひょうご仕事と生活センター外部専門家	黒田 晴美氏	19名
2024. 8. 16	感染症予防対策研修	看護師 三浦	21名
2024. 9. 20	「目的目標を共有する職場のつくり方」 ひょうご仕事と生活センター外部専門家	黒田 晴美氏	21名
2024. 10. 18	「コロロメソッドによる成人期の療育について」 社会福祉法人コロロ学舎加古川 加古川遊園・風翠	施設長 羽田 雅幸氏	21名
2024. 2. 14	BCP（事業継続計画/震災編）研修		20名
随 時	新人研修		

イ 外部研修

日 付	内 容	参加者	場 所
2024. 4. 24	強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）	長石	オンライン開催
2024. 6. 20	社会福祉施設等新任職員研修	多門 櫻井	姫路市市役所北別館
2024. 6. 6	行政立入り監査対応のポイント	上田	オンライン開催
2024. 6. 19	BCP 机上訓練(自然災害編)	三笠	オンライン開催
2024. 7. 17	BCP 机上訓練(感染症編)	三浦	オンライン開催
2024. 7. 30	事故防止研修	西田	オンライン開催
2024. 7. 30	強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）	藤林	オンライン開催
2024. 8. 27	アンガーマネジメント研修	中濱	オンライン開催
2024. 9. 5	虐待防止研修	金田	オンライン開催
2024. 11. 14	「どこに住む？どう選ぶ？これからの障害者の住まい」法改正・報酬改定も交えて考える「住まいいろいろ」	上田	オンライン開催
2024. 11. 17	成人・高齢者のてんかん薬物治療	三浦	神戸大学楠キャンパス

2024. 11. 21	苦情対応研修	三笠	オンライン開催
2024. 11. 27	労務管理研修(労務管理と職員定着化)	上田	オンライン開催
2025. 1. 18	新任職員・初学者向け研修	多門	オンライン開催
2025. 1. 30	虐待防止と身体拘束の適正化	多門	オンライン開催
2025. 1. 31	誰でも住み慣れた地域で幸せに暮らそう！ 強度行動援者の人の集中的支援を学ぶ	三笠	オンライン開催
2025. 2. 6	感染症対策と非常災害時の対応	中濱	オンライン開催
2025. 2. 18	プライバシー保護と事故防止	金田	オンライン開催
2025. 2. 20	社員の「働きがい生まれる」会社を作る いま、取り組むべき離職防止のための3選	上田	オンライン開催
2025. 2. 27	倫理・法令遵守に関する研修	三笠	オンライン開催
2025. 3. 4	NPO 会計オンライン・セミナー	長石	オンライン開催
2025. 3. 6	サービス記録のポイント	多門	オンライン開催
2025. 3. 25	利用者の意思決定支援	西田	オンライン開催

ウ 他事業所見学

2024. 12. 4	社会福祉法人明桜会すたじおぼっち	上田他 4 名
2024. 12. 25	社会福祉法人ノーマライゼーション協会 西淡路希望の家	三笠他 5 名
2024. 12. 26	社会福祉法人ノーマライゼーション協会 西淡路希望の家	中濱他 4 名
2024. 12. 27	社会福祉法人明桜会すたじおぼっち	金田他 4 名
2025. 1. 29	社会福祉法人コロロ学舎加古川	西田他 3 名

7 会議の開催

ア 職員会議（月 1 回）

- (ア) 行事の確認や打ち合わせ、次月予定等の確認を行う。また、職員会議の場で職場内研修や外部からの講師を招いての研修を開催。
- (イ) Zoom を活用したオンラインでの参加も可能で、引き続き 9 割以上の職員が毎回、参加出来ている。

イ 個別支援会議（随時）

- (ア) 本人・家族の意向を確認の上、モニタリング・個別支援計画案を作成。
その上で本人を交え開催。意向の再確認、課題の分析や今後の支援方法について検討と確認を行う。
- (イ) ペーパーレスを意識し、基本的にパソコンを使用。
- (ウ) 職員専用 LINE にて更新した個別支援計画を閲覧できるようにして情報共有を図り、支援の内容や方向性を職員全体に伝えることができている。

ウ 各種委員会

- (ア) 虐待防止委員会（身体拘束等適正化委員会）（年1回）
- (イ) 感染症対策委員会（年4回）
- (ウ) 事業継続計画作成委員会（年1回）
- (エ) 事故防止委員会（年1回）

8 健康管理

ア 登園時の検温、月一回の体重測定と血圧測定を実施している。

イ 感染症（インフルエンザ、新型コロナ等）拡大予防

- (ア) 登園前（自宅での）の検温依頼。登園後の検温実施。発熱（感染流行時期等）が見られた場合は様子観察し、場合によっては利用自粛や早退、医療機関等での検査を依頼。
- (イ) 事業所内で複数人以上の感染者が出た場合には手洗い、消毒、マスク着用等の強化と共に部屋の移動制限や対面での食事を避けるなどの対策を講じている。

ウ 常勤職員を対象に健康診断を実施。（2月）

エ 非常勤職員に対して、健康診断費用の補助（5,000円）を支給。

オ 利用者対象の健康診断を原則廃止し、自主的に健康診断を受診してもらうよう勧める。

9 防災対策

ア 現在の状況

- (ア) 9月・3月に漏電による火災、7月には水害を想定した避難訓練を実施。
- (イ) 姫路東消防署より消火器（訓練用）を借り、使用方法の確認を行う。

イ 今後の課題

災害により甚大な被害が施設やその周辺等に生じた時に利用者への支援提供を継続していく上で事業継続計画（BCP）に基づいた行動や対応が出来るかが課題。

10 利用者支援全般

ア 支援の状況

- (ア) 各利用者との信頼関係を構築し、安心して通所していただけるように配慮している。
- (イ) 視覚支援や環境調整等による、わかりやすく過ごしやすい環境の整備を行う。
- (ウ) 作業時の自助具の作成、活用を適宜行うことで利用者個々の可能性を拓く取り組みを実施している。
- (エ) 引き続き対価（施設外就労、販売）として各種手当を支給することで、モチベーションの向上を支援。
- (オ) 散歩等の運動の他に、体操やマッサージを取り入れ、拘縮予防等身体的な支援と、心の安定等精神的な支援を行う。（外部から理学療法士等を招き指導を受けた上で）
- (カ) タブレット機器を控えることで利用者との直接的な関わりを改めて見直し、深める。

イ 今後の課題

- (ア) 個々の障害特性に特化した環境調整や取り組みの実施とそれに必要な人材の育成と知識の拡充。
- (イ) 利用者と保護者の高齢化を踏まえた支援が年々必要性を増している。利用者と保護者の意向と家庭状況を適宜把握し、相談支援事業所など外部との連携の上、情報提供や相談対応を行えるよう体制を整えていくことが必要。

11 下請け事業部門

【内職作業】

- ・箸のセット ・シールセット製品化 ・サッシ、自販機部品の組立
- ・ペットフード袋詰め ・封筒等折り作業
- ・箱折り (4/8 終了) ・靴下フック部分取り付け(12/19 終了)

【施設外・清掃作業】

- (通年) ・キャスティウォーク※ ・姫山公園※ ・(12～3 月末) 総合福祉会館※
- (春～夏) ・大塩緑道※ ・ハローズ姫路東店駐車場 ・ハローズ夢前台店駐車場
- ・野里マンション清掃 ・ハローズ姫路飾磨店駐車場(新) ・ハローズ香寺店駐車場(新)

※は姫路市より受託

ア 現在の状況

- (ア) 引き続き全体的に安定して下請け作業を進めることができている。
- (イ) 施設外作業として姫路市より清掃業務委託を 4 件、継続して受注。

イ 今後の課題

利用者支援や他部門とのバランスや調整をしていきながら、継続した作業受注と新規開拓を行う必要がある。

12 食品製造部門

【主な販売先など】

- ・はーとふる SHOP (市役所) ・イオン姫路店 ・総合福祉会館 ・香りの里
- ・中播磨県民センター
- ・福崎町駅前観光交流センター・辻川観光交流センター・事業所での直接販売 ・オンライン販売
- ・若葉作業所 (イベント時) ・きゃのーら (イベント時)

ア 現在の状況

- (ア) 材料費の高騰と品質の向上を図るため、価格改定。
- (イ) 第一回ひょうごユニバーサルな商品コンテストにて【カパ助・カパゑのもち麦スイーツ】が金賞受賞

- (ウ) 他事業所（若葉作業所、きゃのーら）にて委託販売（イベント時）
- (エ) 菓子業界経験者を専属パティシエとして採用し、製造から販売まで新たな展開を図っている。
- (オ) POS システムの導入により効率的な売り上げの向上とコスト削減を目指す。

イ 今後の課題

- (ア) 新商品の開発
- (イ) 委託販路の拡大
- (ウ) 工房業務の育成

13 創作活動部門（雑貨等販売部門）

【主な販売先など】

- ・はーとふる SHOP（市役所） ・イオン姫路店 ・PRIVATE SHOP MOKU
- ・BALLERS（神戸） ・事業所での直接販売 ・オンライン販売
- ・若葉作業所（イベント時） ・きゃのーら（イベント時）

【出展・その他】

- ・【ミキケンイチ大図鑑】開催
→プライベートショップ MOKU、さをりスタジオゆうにて、M.K さんの単独作品展を実施
- ・【第 6 回アートラボゆめのはこ】にて、雑貨の展示
- ・【第 1 3 回こころのアート展】にて、M.N さん、Y.K さんの作品が入選
- ・amiami!?! が運営するアートパネルのサブスク事業にて、作品採用

ア 現在の状況

企業とのコラボグッズ販売やイベント参加など、昨年より多様な活動となった。昨年に続き、公募展の応募やインスタグラムによる広報活動も積極的に行っている。

イ 今後の課題

- (ア) 公募展応募や当事業所主催の展示会を行う事により、やりがいを持てる活動を支援することが必要。
- (イ) 販売先の拡大と売上の伸びから、在庫の確保が必要。
- (ウ) 創作活動に興味を示す利用者の作品をより独創的、芸術的に見せる創意工夫など。

14 生活習慣病予防等

ア 支援の状況

- (ア) 主に健康増進を目的とし、生活習慣病等予防・悪化防止に努める。
- (イ) 生活改善等の取り組みが必要な利用者については、個別支援計画に組み込む等し、保護者と連携して取り組みを行っている。

(ウ) 対象利用者には拘縮進行予防を目的としたリハビリを実施（1回／日）

イ 今後の課題

(ア) 利用者の年齢等を踏まえ、今後、作業や創作活動と並行した取り組みとして、他活動とのバランスが課題。

(イ) 生活習慣の関係上、家族との連携が必要。

15 研修活動

ア 支援の状況

(ア) 1人当たり年間2,100円（年3回）の予算で、少人数に分かれて活動を行う。

(イ) 月に2回程度土曜日を開所。5～6名のグループに分けて実施することで安全の確保や充実度の向上を図る。

(ウ) 土曜日の活動に参加希望者は内容により増減するも平均23名程度である。

イ 今後の課題

利用者のニーズに応じた多様な企画、支援体制の強化、費用バランスが課題。安全対策を進め、より充実した余暇の実現を目指します。

16 家族との連携

ア 家族旅行（11月海遊館）、家族会合同地域清掃（3月）を実施。

イ 利用者・家族・職員が支援や行事において連携する事により各々の信頼関係を深めている。

ウ 広報誌“ほほえみ”を月に1回発行。事業所の日常や、次月予定、創作・食品工房・看護からの情報発信を行っている。

17 地域交流

ア 出店販売では利用者も参加し、社会参加に繋がっている。

イ 外部の創作展示会や各種イベントに参加。展示会については他事業所と合同開催をする等、交流だけでなくのちに繋がる関係の形成を行うことが出来ている。

18 バザー出店

姫作連まつり・あうんフェスティバル・民生委員会バザー・姫路赤十字看護学校バザー・姫路医療センター附属看護学校等に出店。

19 実習生の積極的な受け入れ

姫路市成年後見支援センター・姫路赤十字看護学校からの実習生の受け入れ

20 労務・経理関係

ア 職員を増員することによる負担軽減とやりがい作りをめざす。

イ 全職員を対象に管理者による個人面談を年2回実施し、現状の把握や今後の方針を再確認する。

ウ 残業時間を短縮。

エ 公益財団法人兵庫県勤労福祉協会より「ひょうご仕事と生活の調和推進企業」に認定。

21 ICT の活用

ア 現在の状況

(ア) 職員間の情報共有を目的としたオンラインツール活用（LINE、Zoom）。

イ 今後の課題

(ア) オンラインツールや SNS を活用することによる個人情報の流出の危険性。